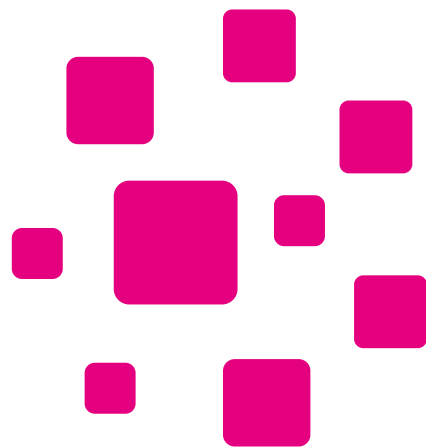


LIVE FOR WEbLiFE*

DIGITALSTAGE PRODUCT #030
A WEB PRESENTATION SOFTWARE
ライブ・フォー・ウェブライフ



BiND × LiVE カンタン連携キット 取扱マニュアル

最初にお読みください

ご利用になる前に、必ず本書をお読みいただき、手順に沿って実行してください。

STEP 0

準備

連携に必要なものを確認する

「BiND for WebLiFE*5」 ソフトウェア

BiND for WebLiFE*5がインストールされていることをご確認ください。



「LiVE for WebLiFE*」 ソフトウェア

LiVE for WebLiFE*がインストールされていることをご確認ください。

アップdaterを適用し、必ず最新のバージョンでご使用ください。



BiND5サイト

BiND for WebLiFE*5で作成・編集されたサイトです。

※FTPサーバにアップロードする必要があります。



連携テンプレートセット

LiVE for WebLiFE*の製品登録後、MyPage Serviceよりダウンロードできます。

※登録済み製品によりセット内容が異なります。

各連携キットを使用した、連携後のサイトの見本は下記をご覧ください。

- [連携キット #01] <http://template.digitalstage.jp/kit/001/>
- [連携キット #02] <http://template.digitalstage.jp/kit/002/>
- [連携キット #03] <http://template.digitalstage.jp/kit/003/>



BiND×LiVEカンタン連携キット #01 Black



BiND×LiVEカンタン連携キット #01 Red



BiND×LiVEカンタン連携キット #02 Black



BiND×LiVEカンタン連携キット #02 Red



BiND×LiVEカンタン連携キット #03 Black



BiND×LiVEカンタン連携キット #03 Red

STEP 1

連携テンプレートを確認する



MyPage Serviceからダウンロード、ダブルクリックすると自動で連携テンプレートセット6種がインストールされます。LIVE for WebLiFE*のサイトシアター画面の「新規サイト」ボタンをクリック、サイトテンプレート選択画面で「連携キット」タブで確認してください。

※【重要】LIVEを終了した状態(起動していない状態)でインストールを行ってください。

ご注意

連携キットは、BiNDサイトのトップページにLIVEのダイナミックな要素を効果的に取り込むための機能です。またBiND1サイトにつき、1点の設定を行ってください。



STEP 2

連携テンプレートをデザインする



LIVE for WebLiFE*で任意の連携テンプレートを編集します。ページエディタでスライドを開き、文章や画像などを差し替え、編集を完了してください。

※ページのファイル名は、「index.html」以外の名前にはしないでください。

※連携テンプレートでデザインされている数値(横幅・縦幅など)は推奨サイズです。これらを変更すると、連携の際レイアウトが崩れる可能性があります。ご注意ください。



STEP 3

連携テンプレートをBiND5サイトフォルダに格納する



ここでは、STEP2で編集したLIVEサイトを、BiND5のサイトフォルダ内に格納します。該当のLIVEサイトのフォルダ名(数字)を確認する必要があります。LIVEを起動し、サイトエディタ画面を開き、左上のサイトデータの名称横の地球マーク※1を押すと、サイトデータの保存先が別ウィンドウで表示され、フォルダ名(番号)や保存先が確認できます。

※フォルダ名(番号)はSTEP5でも使用しますので、メモしておきましょう。

確認したらLIVEを終了します。



※1 地球マーク

[LIVE サイトデータ保存先]

Macintosh

HD>書類>DIGITALSTAGE>MyLiVE_Sites>XX(数字、該当のサイトのフォルダ)

Windows

C>ドキュメント>DIGITALSTAGE>MyLiVE_Sites>XX(数字、該当のサイトのフォルダ)

LIVEサイトフォルダ[XX]をフォルダごとコピーします。

コピーしたら、取り込みたいBiND5サイトフォルダ内の[_userdata]フォルダ内に貼りつけてください。

[BiND5 サイトデータ保存先]

Macintosh

HD>書類>DIGITALSTAGE>MyBiND5_Sites>site00XX(該当のサイトフォルダ)>_userdata

Windows

C>ドキュメント>DIGITALSTAGE>MyBiND5_Sites>site00XX(該当のサイトフォルダ)>_userdata

STEP 4

連携テンプレートを読み込むサイズを決める

BiND5

BiND for WebLiFE*5を起動し、LiVEサイトを表示させるサイトの「サイトエディタ」上でページを選択し、設定>ページ設定>ページレイアウトタブをクリックして、読み込ませたいブロックの横幅を設定してください。 ※「高さ」は連携テンプレートに依存します。



横幅はそれぞれ下記がおすすめです。

BiND×LiVEカンタン連携キット#1
[LiVE Opening Cover] **1076px**

BiND×LiVEカンタン連携キット#2
[LiVE Multi Index] **1024px**

BiND×LiVEカンタン連携キット#3
[LiVE Dynamic Index] **960px**

STEP 5

連携テンプレートをBiND5サイトに読み込む

BiND5

任意の連携テンプレートのソースコードを入力する

BiND5サイトを開き、表示するブロックのブロックエディタでカスタムタグパーツ「HTMLソース:」<編集する>ボタンをクリックします。エディタが開きますので、表示させる連携キットのソースコードを入力します。ソースコード内の/livesite/をSTEP3でメモしているフォルダ名に書き換えます。

BiND×LiVEカンタン連携キット#1 [LiVE Opening Cover] ソースコード

```
<iframe src="[BD:path_userdata]/livesite/index.html?bdkit=1" width="1076" height="650" scrolling="no" frameborder="0" allowtransparency="true"></iframe>
```

※赤字部分[livesite]をSTEP3でメモしているフォルダ名に書き換えます

BiND×LiVEカンタン連携キット#2 [LiVE Multi Index] ソースコード

```
<iframe src="[BD:path_userdata]/livesite/index.html?bdkit=1" width="1024" height="800" scrolling="no" frameborder="0" allowtransparency="true"></iframe>
```

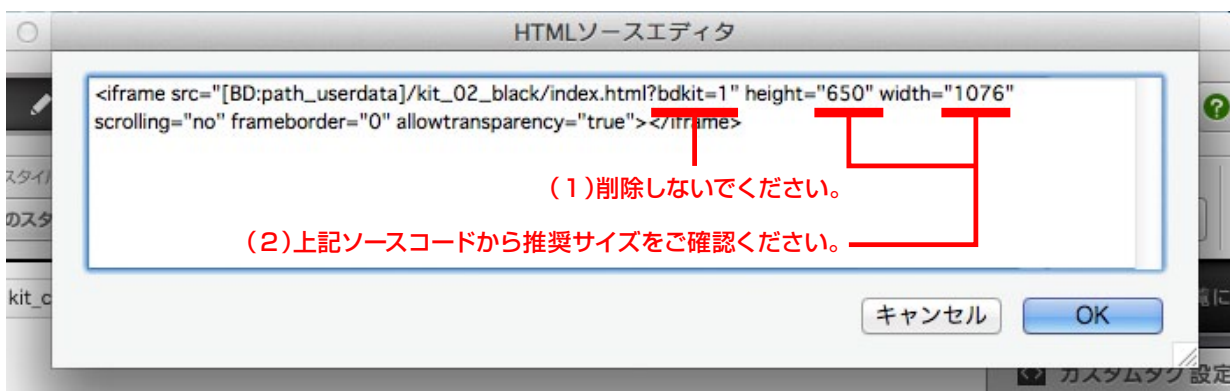
※赤字部分[livesite]をSTEP3でメモしているフォルダ名に書き換えます

BiND×LiVEカンタン連携キット#3 [LiVE Dynamic Index] ソースコード

```
<iframe src="[BD:path_userdata]/livesite/index.html?bdkit=1" width="960" height="800" scrolling="no" frameborder="0" allowtransparency="true"></iframe>
```

※赤字部分[livesite]をSTEP3でメモしているフォルダ名に書き換えます

●設定例



ご注意・連携テンプレートはBiNDサイト1ページにつき1点をおすすめします。2点以上読み込むと動作に影響が出る可能性があります。

変更される際のご注意

- (1)html名の後の「?bdkit=1」は削除しないでください。記載が無いと連携が実行できなくなります。
- (2)「width」「height」の値は推奨サイズです。これらを変更すると、連携の際レイアウトが崩れる可能性があります。変更される場合はご注意ください。
- (3a)ブロックフレームは必ず「なし」を選択してください。

STEP 6

連携テンプレートをブロックにフィットさせる



ブロック内のスペースをなくして、連携テンプレートをフィットさせます。ブロックエディタ>設定>行間&余白設定をクリックし、余白の数値で指定をチェックして、すべての数値を0にします。



STEP 7

BiND5サイトをアップロードする



指定のFTPサーバーにBiND5でサイトのアップロードを行います。



STEP 8

連携を確認する



ブラウザでBiND5サイトのURLをプレビューし、連携テンプレートが読み込まれていることをご確認ください。

※BiND5及びLIVEの推奨ブラウザにてご確認ください。

ご注意

ローカル環境では下記のような表示になります。
連携結果はアップロードされたサイトでご確認ください。

